

## Special Essay

### 医学図書館の思い出

病理学二講座

杉田 保雄

私と旭町の医学図書館のお付き合いは 35 年位になるでしょうか。現在、一階の書庫になっている場所は私の学生時代は合同講義室と呼ばれる講義室であり、講義や定期試験をよくこの教室で受けたことを思い出します。卒業試験もこの教室で受験しました。また現在、教育 1 号館がある場所には生理学、薬理学、寄生虫などの基礎医学の医局、研究室、実習室があり、渡り廊下で医学図書館と繋がっていました。当時は現在と違ってくつろぐ場所も少なく基礎医学の実習の休憩時間に医学図書館の玄関前で友人達とよく屯したものです。本格的に医学図書館の利用を始めたのは卒業後に医師になってからです（昭和 55 年以降です）。確か平成 5~6 年頃までは現在と異なり、Pub Med などの検索ツールも電子ジャーナルもなく、図書館内で文献を探し回ったことが懐かしく思われます。また、文献を探し当てるのも大変であり、ようやくお目当ての文献を探し当てた時の感激は今もよく覚えています。平成 13 年 12 月~平成 18 年 3 月までは佐賀大学医学部に移りましたので旭町の医学図書館のお付き合いは一時的に途絶えましたが、平成 18 年 4 月に帰学してからは再度の医学図書館とのお付き合いが始まりました。最近では自分のパソコンから文献検索を行い、電子ジャーナルからダウンロードを行って必要な文献を手に入れるパターンが多くなりました。こうしたやり方は便利で能率的であり、短時間に仕事は捗ります。それでは以前の医学図書館に出向くやり方は全く無駄だったのでしょうか？最近ではむしろ必ずしも時間の無駄ではなかったのではないかと思う様になりました。自分の今までの研究を振り返ってみても目的とした文献を探す際に偶然に出会った文献が新たな研究のヒントになったことが多々あったからです。また最近のことですが、Rosenthal fiber について医学図書館で調べていたところ、ependymosarcoma なる今まで知らなかった概念に辿り着くことができました。考えてみればこれは当たり前のことなのです。つまり、文献であれ、書物であれ、これらは先人の血と汗の結晶であり、医学図書館はまさに知識の宝庫なのです。もちろん、今後、私は診療、研究などに検索ツールや電子ジャーナルを活用して能率的に仕事を進めるつもりですが、時間が許せば医学図書館に出向いてお宝を発掘したいとも思っています。学生諸君も先生方もたまには医学図書館にお宝探しに行ってもみませんか？ひょっとすると貴方の人生を変える様なすごいお宝に出会えるかもしれませんよ。

